

手足口病とヘルパンギーナはいずれもエンテロウイルスによるものですが、それぞれの原因となるウイルス型は数種類のものが含まれています。ヘルパンギーナは、発熱と喉に水疱疹ができるのが特徴ですが、その原因となるのは、エンテロウイルスのなかの、コクサッキーA4、A6、A10型が多く、喉の痛みが強くて水分が取れなくて脱水になることもあります。また、手足口病は、手と足と口周辺に水疱疹ができますが、これはエンテロウイルスのなかの、コクサッキーA16、コクサッキーA6、エンテロ71などで起こり、エンテロ71の場合には、無菌性髄膜炎

や脳炎などを起こすことがあります。また、コクサッキーA6の場合には、非定型となって、手、足、口だけではなく、背中やお尻、大腿部に水疱疹ができることもあって、以前には水痘と間違われたこともあり、注意が必要です。

またこれらの疾患は、いずれもヒトからヒトへ感染していくものですが、特に、症状が無くなった後も数週間は便にウイルスが排泄されますし、無症候性感染と言われる症状の無い人の中にもウイルスを排出している人がいます。こういうことを考えれば、特に周りで流行していなくても、やはり、手洗いは重要ですね。

(臨床研究部長 谷口 清州)

夏かぜ考

園芸活動



春～夏用の プランター花壇・菜園造り



にじいろガーデン

2病棟では長期入院している学齢期の子どもたちと、療育の1つとして園芸活動『にじいろガーデン』の取り組みをしています。『にじいろガーデン』の目的や歴史、苗の植え方などについての学習会を開き、

活動に向かう気持ちを全員で確認し合い、今年も5月に春～夏に向けた花壇・菜園造りを行いました。

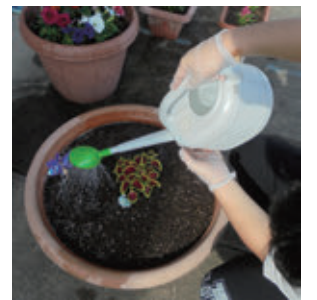
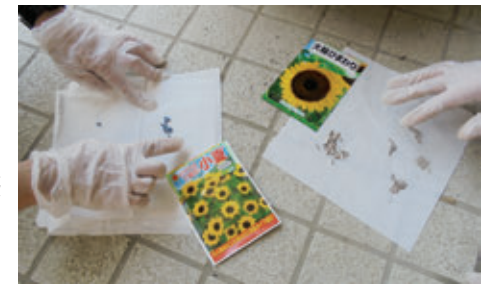
参加した子どもたちからは「ポットから苗を出して植える本格的な

ガーデン造りは初めて。良い経験になったよ」、「今までだったらこういう活動は絶対に参加しなかったけど、参加できる自分になれたことが奇跡や」といった声が聞かれました。

入院当初は“こんなこと自分にはできるはずがない”と諦め、自分の限界を決めてしまう傾向にある子どもたちでしたが、入院生活や療育活動を通してできることが

1つずつ増えていき、仲間とともに活動することにも喜びを感じられるようになり、自信を回復する良い機会となったようです。

今回、『にじいろガーデン』の場所は、芝生が目の前に広がる多目的棟中庭へと移りました。病棟からは少し遠くなりましたが、運動をかねて歩いて行きます。太陽の光のもと、心地よい風を肌で感じながら水やりなどのお世話をすることはリフレッシュにつながり、身体と心の健康づくりに一役かっています。



夏本番の厳しい暑さにお花や野菜たちが負けないよう、子どもたちは毎日愛情をかけて一所懸命お世話をしています。たくましく元気に育っているお花や野菜たち見に、ぜひ『にじいろガーデン』へお越しください。

(児童指導員 福山 涼)